

医学部

[選抜] ~第1次試験~

物理

※選抜は物理・化学・生物から2科目選択
学士は化学・生物必須

試験時間 100分

- 注意事項
- この科目的問題用紙は10ページ、解答用紙はマークカード1枚である。
 - 解答用紙には受験番号と氏名の記入を忘れないこと。
 - 解答は必ず解答用紙の指定された箇所に記入すること。
 - 問題用紙は解答用紙とともに机上において退出すること。持ち帰ってはいけない。

【I】次の問い合わせ(問1～問5)に答えよ。(解答番号 1 ～ 9)

問1 図1のように、長さ L [m]の軽い糸の一端に質量 m [kg]の小球Pをつけ、糸の他端を天井の点Oにつけて鉛直面内で振動させた。糸と鉛直線のなす角度が θ [rad]のとき、Pの角速度を ω [rad/s]とすると、Pの運動エネルギーと重力による位置エネルギーの和は 1 [J]となる。また、このときの糸の張力の大きさは 2 [N]である。ただし、重力加速度の大きさを g [m/s²]とし、Pが点Oの真下にあるときの高さを位置エネルギーの基準点とする。

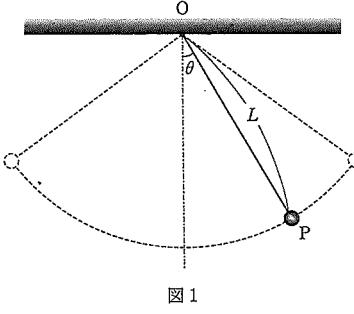


図1

解答群

- ① $\frac{mL\omega}{2} + mgL \cos \theta$ ② $\frac{mL^2\omega}{2} + mgL \cos \theta$
 ③ $\frac{mL\omega^2}{2} + mgL \cos \theta$ ④ $\frac{mL^2\omega^2}{2} + mgL \cos \theta$
 ⑤ $\frac{mL\omega}{2} + mgL(1 - \cos \theta)$ ⑥ $\frac{mL^2\omega}{2} + mgL(1 - \cos \theta)$
 ⑦ $\frac{mL\omega^2}{2} + mgL(1 - \cos \theta)$ ⑧ $\frac{mL^2\omega^2}{2} + mgL(1 - \cos \theta)$
 ⑨ $mL\omega + mg \sin \theta$ ⑩ $mL^2\omega + mg \sin \theta$ ⑪ $mL\omega^2 + mg \sin \theta$
 ⑫ $mL^2\omega^2 + mg \sin \theta$ ⑬ $mL\omega + mg \cos \theta$ ⑭ $mL^2\omega + mg \cos \theta$
 ⑮ $mL\omega^2 + mg \cos \theta$ ⑯ $mL^2\omega^2 + mg \cos \theta$

問2 図2のように、あらい水平面に置かれた質量 M [kg]の小物体Aに、ばね定数 k [N/m]の軽いばねをつけ、水平と角度 θ [rad]をなす斜め上方に力を加える。加える力を少しつ大きくしたところ、大きさ F [N]でAが水平面から離れずに水平に動き出した。重力加速度の大きさを g [m/s²]として、Aと水平面との間の静止摩擦係数は 3 である。また、Aが動き出す直前のばねの自然の長さからの伸びは 3 を μ とおいて、 M , k , θ , g , μ を用いて表すと 4 [m]である。

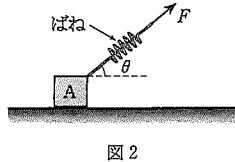


図2

[3] の解答群

- ① $\frac{F \sin \theta}{Mg + F \sin \theta}$ ② $\frac{F \cos \theta}{Mg + F \sin \theta}$ ③ $\frac{F \sin \theta}{Mg - F \sin \theta}$ ④ $\frac{F \cos \theta}{Mg - F \sin \theta}$
 ⑤ $\frac{F \sin \theta}{Mg + F \cos \theta}$ ⑥ $\frac{F \cos \theta}{Mg + F \cos \theta}$ ⑦ $\frac{F \sin \theta}{Mg - F \cos \theta}$ ⑧ $\frac{F \cos \theta}{Mg - F \cos \theta}$

[4] の解答群

- ① $\frac{\mu Mg}{k(\sin \theta + \mu \cos \theta)}$ ② $\frac{\mu Mg}{k(\cos \theta + \mu \sin \theta)}$ ③ $\frac{\mu Mg}{k(\sin \theta - \mu \cos \theta)}$
 ④ $\frac{\mu Mg}{k(\cos \theta - \mu \sin \theta)}$ ⑤ $\frac{\mu Mg}{k(1 + \mu \tan \theta)}$ ⑥ $\frac{\mu Mg}{k(1 - \mu \tan \theta)}$
 ⑦ $\frac{\mu Mg}{k(\mu + \tan \theta)}$ ⑧ $\frac{\mu Mg}{k(\mu - \tan \theta)}$

問3 図3のように、平面上にある一辺の長さが d [m]の正六角形の各頂点の位置に、この平面と垂直に6本の細くてじゅうぶんに長い直線状の導線AからFを通した。それぞれの導線に電流 I [A]を、Aには上向きに、BからFには下向きに流した。このとき、この正六角形の中心の点Pでの磁場の強さは 5 [A/m]である。ただし、図3は平面を上から見た図である。

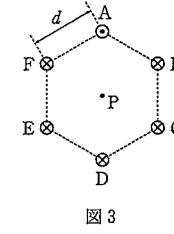


図3

解答群

- ① $\frac{I}{6\pi d}$ ② $\frac{I}{5\pi d}$ ③ $\frac{I}{4\pi d}$ ④ $\frac{I}{3\pi d}$
 ⑤ $\frac{I}{2\pi d}$ ⑥ $\frac{I}{\pi d}$ ⑦ $\frac{2I}{\pi d}$ ⑧ $\frac{3I}{\pi d}$
 ⑨ $\frac{4I}{\pi d}$ ⑩ $\frac{5I}{\pi d}$ ⑪ $\frac{6I}{\pi d}$

問4 図4のように、振動数 f [Hz]の音波を出しながら、音源 S_1 が直線上を速さ v_1 [m/s]で観測者Oに近づいている。音の速さを V [m/s]とすると、Oが観測する音波の波長は 6 [m]である。つぎに、 S_1 をOに近づけながら、 S_1 と同じ振動数の音波を出す音源 S_2 を、 S_1 と反対側から同じ直線上を速さ v_2 [m/s]でOに近づける。このとき、Oは1秒間に 7 回のうなりを観測する。ただし、 $V > v_1 > v_2$ とし、風は吹いていないものとする。

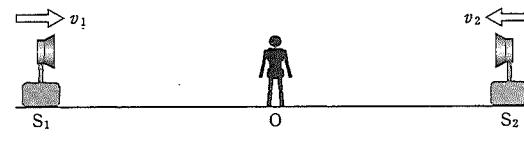


図4

[6] の解答群

- ① $\frac{V}{f}$ ② $\frac{f}{V}$ ③ $\frac{V+v_1}{f}$
 ④ $\frac{f}{V+v_1}$ ⑤ $\frac{V-v_1}{f}$ ⑥ $\frac{f}{V-v_1}$

[7] の解答群

- ① $\frac{(v_1+v_2)V}{(V+v_1)(V+v_2)f}$ ② $\frac{(v_1-v_2)V}{(V+v_1)(V+v_2)f}$ ③ $\frac{(v_1+v_2)V}{(V-v_1)(V+v_2)f}$
 ④ $\frac{(v_1-v_2)V}{(V-v_1)(V+v_2)f}$ ⑤ $\frac{(v_1+v_2)V}{(V-v_1)(V-v_2)f}$ ⑥ $\frac{(v_1-v_2)V}{(V-v_1)(V-v_2)f}$
 ⑦ $\frac{(2V+v_1+v_2)V}{(V-v_1)(V+v_2)f}$ ⑧ $\frac{(2V+v_1-v_2)V}{(V-v_1)(V+v_2)f}$ ⑨ $\frac{(2V-v_1+v_2)V}{(V-v_1)(V+v_2)f}$
 ⑩ $\frac{(2V-v_1-v_2)V}{(V-v_1)(V+v_2)f}$

問 5 図 5 のように、なめらかに動くピストンがついた容器 A と B に単原子分子理想気体を入れて、ピストンを連結し、A と B を水平な床に固定した。このとき、2つの容器内の気体はともに、圧力 P_0 [Pa]、温度 T_0 [K]、体積 V_0 [m³]であった。つぎに、A 内の気体の温度を一定に保ったまま、B 内の気体の温度を ΔT [K]だけ上げたところ、B 内の気体の圧力は $8 \times P_0$ [Pa]となり、B 内の気体の体積は $9 \times V_0$ [m³]だけ増加した。

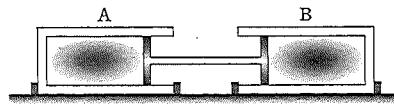


図 5

解答群

- ① $\frac{\Delta T}{2T_0}$ ② $\frac{\Delta T + T_0}{2T_0}$ ③ $\frac{2\Delta T + T_0}{2T_0}$ ④ $\frac{\Delta T + 2T_0}{2T_0}$
 ⑤ $\frac{\Delta T}{\Delta T + 2T_0}$ ⑥ $\frac{T_0}{\Delta T + 2T_0}$ ⑦ $\frac{2\Delta T}{\Delta T + 2T_0}$ ⑧ $\frac{2T_0}{\Delta T + 2T_0}$
 ⑨ $\frac{\Delta T + T_0}{\Delta T + 2T_0}$ ⑩ $\frac{2\Delta T + T_0}{\Delta T + 2T_0}$ ⑪ $\frac{2\Delta T + 2T_0}{\Delta T + 2T_0}$ ⑫ $\frac{2\Delta T + 2T_0}{2\Delta T + T_0}$

【II】次の問い(問 1～問 6)に答えよ。(解答番号 ~)

図 6 のように、質量 $2 m$ [kg]の小物体 A を水平面上の点 P から水平と角度 30° をなす斜め上方へ、速さ v_0 [m/s]で投射した。また、水平面上の点 Q から、質量 m [kg]の小物体 B を A の投射と同時に真上に投射したところ、A と B はともに最高点 R で衝突し、一体となった。その後、一体となった小物体は水平面上の点 S に落下し、はね返った。ただし、重力加速度の大きさを g [m/s²]とし、すべての小物体は同じ鉛直面内を運動するものとする。また、A と B が一体となった小物体を C とよぶことにする。

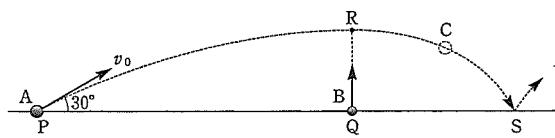


図 6

問 1 A を投射してから、点 R で A と B が衝突するまでの時間は [s] であり、点 R の水平面からの高さは [m] である。

[1] の解答群

- ① $\frac{v_0}{3g}$ ② $\frac{v_0}{2g}$ ③ $\frac{\sqrt{3}v_0}{3g}$ ④ $\frac{\sqrt{2}v_0}{2g}$ ⑤ $\frac{\sqrt{3}v_0}{2g}$
 ⑥ $\frac{v_0}{g}$ ⑦ $\frac{2\sqrt{3}v_0}{3g}$ ⑧ $\frac{\sqrt{2}v_0}{g}$ ⑨ $\frac{\sqrt{3}v_0}{g}$ ⑩ $\frac{2v_0}{g}$

[2] の解答群

- ① $\frac{v_0^2}{18g}$ ② $\frac{v_0^2}{8g}$ ③ $\frac{v_0^2}{6g}$ ④ $\frac{v_0^2}{4g}$ ⑤ $\frac{3v_0^2}{8g}$
 ⑥ $\frac{v_0^2}{2g}$ ⑦ $\frac{2v_0^2}{3g}$ ⑧ $\frac{v_0^2}{g}$ ⑨ $\frac{3v_0^2}{2g}$ ⑩ $\frac{2v_0^2}{g}$

問 2 投射直後の B の速さは [m/s] である。

解答群

- ① $\frac{1}{3}v_0$ ② $\frac{1}{2}v_0$ ③ $\frac{\sqrt{3}}{3}v_0$ ④ $\frac{\sqrt{2}}{2}v_0$ ⑤ $\frac{\sqrt{3}}{2}v_0$
 ⑥ v_0 ⑦ $\frac{2\sqrt{3}}{3}v_0$ ⑧ $\sqrt{2}v_0$ ⑨ $\sqrt{3}v_0$ ⑩ $2v_0$

問 3 点 R で衝突する直前の A の速さは [m/s] であり、衝突直後の C の速さは [m/s] である。

解答群

- ① $\frac{1}{3}v_0$ ② $\frac{1}{2}v_0$ ③ $\frac{\sqrt{3}}{3}v_0$ ④ $\frac{\sqrt{2}}{2}v_0$ ⑤ $\frac{\sqrt{3}}{2}v_0$
 ⑥ v_0 ⑦ $\frac{2\sqrt{3}}{3}v_0$ ⑧ $\sqrt{2}v_0$ ⑨ $\sqrt{3}v_0$ ⑩ $2v_0$

問 4 A を投射してから、C が点 S に落下するまでの時間は [s] であり、点 P と点 S の間の距離は [m] である。

[6] の解答群

- ① $\frac{v_0}{3g}$ ② $\frac{v_0}{2g}$ ③ $\frac{\sqrt{3}v_0}{3g}$ ④ $\frac{\sqrt{2}v_0}{2g}$ ⑤ $\frac{\sqrt{3}v_0}{2g}$
 ⑥ $\frac{v_0}{g}$ ⑦ $\frac{2\sqrt{3}v_0}{3g}$ ⑧ $\frac{\sqrt{2}v_0}{g}$ ⑨ $\frac{\sqrt{3}v_0}{g}$ ⑩ $\frac{2v_0}{g}$

[7] の解答群

- ① $\frac{v_0^2}{12g}$ ② $\frac{\sqrt{3}v_0^2}{12g}$ ③ $\frac{v_0^2}{4g}$ ④ $\frac{5v_0^2}{12g}$ ⑤ $\frac{\sqrt{3}v_0^2}{4g}$
 ⑥ $\frac{7v_0^2}{12g}$ ⑦ $\frac{5\sqrt{3}v_0^2}{12g}$ ⑧ $\frac{3v_0^2}{4g}$ ⑨ $\frac{7\sqrt{3}v_0^2}{12g}$ ⑩ $\frac{3\sqrt{3}v_0^2}{4g}$

問 5 点 S ではね返った直後の C の速度の鉛直成分の大きさは [m/s] である。ただし、C が水平面ではね返ったときのはね返り係数を e とする。

解答群

- ① $\frac{1}{3}ev_0$ ② $\frac{1}{2}ev_0$ ③ $\frac{\sqrt{3}}{3}ev_0$ ④ $\frac{\sqrt{2}}{2}ev_0$ ⑤ $\frac{\sqrt{3}}{2}ev_0$
 ⑥ ev_0 ⑦ $\frac{2\sqrt{3}}{3}ev_0$ ⑧ $\sqrt{2}ev_0$ ⑨ $\sqrt{3}ev_0$ ⑩ $2ev_0$

問 6 点 S ではね返った後に、C がもっとも高くなったときの水面からの高さは [m] である。

解答群

- ① $\frac{e^2v_0^2}{32g}$ ② $\frac{e^2v_0^2}{18g}$ ③ $\frac{e^2v_0^2}{8g}$ ④ $\frac{e^2v_0^2}{6g}$ ⑤ $\frac{e^2v_0^2}{4g}$
 ⑥ $\frac{3e^2v_0^2}{8g}$ ⑦ $\frac{e^2v_0^2}{2g}$ ⑧ $\frac{2e^2v_0^2}{3g}$ ⑨ $\frac{e^2v_0^2}{g}$ ⑩ $\frac{3e^2v_0^2}{2g}$

【III】次の問い合わせよ。(解答番号 ~)

図 7 のように、抵抗値 R [Ω]の電気抵抗 R 、電気容量がそれぞれ C_1 [F]と C_2 [F]のコンデンサー C_1 と C_2 、自己インダクタンス L [H]のコイル L 、スイッチ S_1 と S_2 、内部抵抗の無視できる起電力 V [V]の直流電源 E 、および交流電源を接続した回路がある。はじめ S_1 と S_2 は開いており、 C_1 と C_2 に電荷はたくわえられていないものとする。

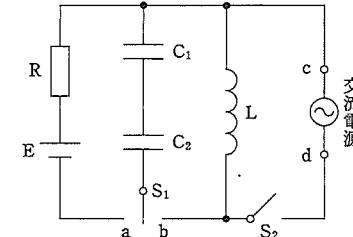


図 7

問 1 S_1 を接点 a につないだ直後に R に流れる電流は [A] である。

解答群

- ① 0 ② $(C_1 + C_2)V$ ③ $\frac{C_1C_2}{C_1 + C_2}V$
 ④ $\frac{C_1 + C_2}{C_1C_2}V$ ⑤ $\frac{V}{R}$ ⑥ $\frac{R}{V}$
 ⑦ $V\sqrt{\frac{1}{R^2} + (C_1 + C_2)^2}$ ⑧ $V\sqrt{\frac{1}{R^2} + (\frac{C_1C_2}{C_1 + C_2})^2}$

問 2 S_1 を接点 a につないでじゅうぶんに時間がたったとき、 C_1 の両端に加わる電圧は 2 [V] であり、 C_1 にたくわえられている電気量は 3 [C] である。また、 C_1 と C_2 にたくわえられている静電エネルギーの和は 4 [J] である。

2 と 3 の解答群

- | | | | |
|--|---|---|---------------------------------|
| ① $C_1 V$ | ② $C_2 V$ | ③ $\frac{V}{C_1}$ | ④ $\frac{V}{C_2}$ |
| ⑤ $\frac{C_2}{C_1} V$ | ⑥ $\frac{C_1}{C_2} V$ | ⑦ $\frac{C_1}{C_1 + C_2} V$ | ⑧ $\frac{C_2}{C_1 + C_2} V$ |
| ⑨ $\frac{C_1 + C_2}{C_1} V$ | ⑩ $\frac{C_1 + C_2}{C_2} V$ | ⑪ $\frac{C_1 C_2}{C_1 + C_2} V$ | ⑫ $\frac{C_1 + C_2}{C_1 C_2} V$ |
| 4 の解答群 | | | |
| ① $\frac{C_1 C_2}{C_1 + C_2} V^2$ | ② $\frac{C_1 + C_2}{C_1 C_2} V^2$ | ③ $\frac{C_1 C_2 (C_1 - C_2)}{(C_1 + C_2)^2} V^2$ | |
| ④ $\frac{(C_1 + C_2)^2}{C_1 C_2 (C_1 - C_2)} V^2$ | ⑤ $\frac{C_1 C_2}{2(C_1 + C_2)} V^2$ | ⑥ $\frac{C_1 + C_2}{2 C_1 C_2} V^2$ | |
| ⑦ $\frac{C_1 C_2 (C_1 - C_2)}{2(C_1 + C_2)^2} V^2$ | ⑧ $\frac{(C_1 + C_2)^2}{2 C_1 C_2 (C_1 - C_2)} V^2$ | | |

問 3 つぎに、 S_1 を接点 a から接点 b に切りかえたところ、 C_1 と C_2 および L に振動電流が流れた。この振動電流の角周波数は 5 [rad/s] であり、電流の最大値は 6 [A] である。

5 の解答群

- | | | | |
|--|---|---|---------------------------------------|
| ① $\frac{C_1 + C_2}{LC_1 C_2}$ | ② $\frac{C_1 C_2}{L(C_1 + C_2)}$ | ③ $\frac{L(C_1 + C_2)}{C_1 C_2}$ | ④ $\frac{LC_1 C_2}{C_1 + C_2}$ |
| ⑤ $\sqrt{\frac{C_1 + C_2}{LC_1 C_2}}$ | ⑥ $\sqrt{\frac{C_1 C_2}{L(C_1 + C_2)}}$ | ⑦ $\sqrt{\frac{L(C_1 + C_2)}{C_1 C_2}}$ | ⑧ $\sqrt{\frac{LC_1 C_2}{C_1 + C_2}}$ |
| 6 の解答群 | | | |
| ① $\frac{C_1 + C_2}{LC_1 C_2} V$ | ② $\frac{C_1 C_2}{L(C_1 + C_2)} V$ | ③ $\frac{L(C_1 + C_2)}{C_1 C_2} V$ | |
| ④ $\frac{LC_1 C_2}{C_1 + C_2} V$ | ⑤ $\sqrt{\frac{C_1 + C_2}{LC_1 C_2}} V$ | ⑥ $\sqrt{\frac{C_1 C_2}{L(C_1 + C_2)}} V$ | |
| ⑦ $\sqrt{\frac{L(C_1 + C_2)}{C_1 C_2}} V$ | ⑧ $\sqrt{\frac{LC_1 C_2}{C_1 + C_2}} V$ | | |

問 4 S_1 を開き、振動電流を止めたあとに、 C_1 と C_2 にたくわえられていた電荷を放電した。その後、 S_1 を接点 b につなぎ、 S_2 を閉じた。 S_2 を閉じた瞬間を時刻 0 とすると、時刻 t [s] のときの点 d に対する点 c の電位 v [V] が、角周波数を ω [rad/s]、電圧の最大値を V_0 [V] として $v = V_0 \sin \omega t$ と表された。このとき、点 c から L を通って点 d へ流れる電流は 7 [A] であり、点 c から C_1 と C_2 を通って点 d へ流れる電流は 8 [A] である。ただし、 C_1 と C_2 の合成容量を C [F] とする。また、必要に応じて以下の式を利用せよ。

$$\sin\left(\omega t + \frac{\pi}{2}\right) = \cos \omega t, \quad \sin\left(\omega t - \frac{\pi}{2}\right) = -\cos \omega t$$

7 の解答群

- | | | | |
|--|---|--|---|
| ① $\omega L V_0 \sin \omega t$ | ② $-\omega L V_0 \sin \omega t$ | ③ $\frac{1}{\omega L} V_0 \sin \omega t$ | ④ $-\frac{1}{\omega L} V_0 \sin \omega t$ |
| ⑤ $\frac{L}{\omega} V_0 \sin \omega t$ | ⑥ $-\frac{L}{\omega} V_0 \sin \omega t$ | ⑦ $\frac{\omega}{L} V_0 \sin \omega t$ | ⑧ $-\frac{\omega}{L} V_0 \sin \omega t$ |
| ⑨ $\omega L V_0 \cos \omega t$ | ⑩ $-\omega L V_0 \cos \omega t$ | ⑪ $\frac{1}{\omega L} V_0 \cos \omega t$ | ⑫ $-\frac{1}{\omega L} V_0 \cos \omega t$ |
| ⑬ $\frac{L}{\omega} V_0 \cos \omega t$ | ⑭ $-\frac{L}{\omega} V_0 \cos \omega t$ | ⑮ $\frac{\omega}{L} V_0 \cos \omega t$ | ⑯ $-\frac{\omega}{L} V_0 \cos \omega t$ |

8 の解答群

- | | | | |
|--|---|--|---|
| ① $\omega C V_0 \sin \omega t$ | ② $-\omega C V_0 \sin \omega t$ | ③ $\frac{1}{\omega C} V_0 \sin \omega t$ | ④ $-\frac{1}{\omega C} V_0 \sin \omega t$ |
| ⑤ $\frac{C}{\omega} V_0 \sin \omega t$ | ⑥ $-\frac{C}{\omega} V_0 \sin \omega t$ | ⑦ $\frac{\omega}{C} V_0 \sin \omega t$ | ⑧ $-\frac{\omega}{C} V_0 \sin \omega t$ |
| ⑨ $\omega C V_0 \cos \omega t$ | ⑩ $-\omega C V_0 \cos \omega t$ | ⑪ $\frac{1}{\omega C} V_0 \cos \omega t$ | ⑫ $-\frac{1}{\omega C} V_0 \cos \omega t$ |
| ⑬ $\frac{C}{\omega} V_0 \cos \omega t$ | ⑭ $-\frac{C}{\omega} V_0 \cos \omega t$ | ⑮ $\frac{\omega}{C} V_0 \cos \omega t$ | ⑯ $-\frac{\omega}{C} V_0 \cos \omega t$ |

問 5 点 c を流れる電流の実効値は 9 [A] である。ただし、 C_1 と C_2 の合成容量を C [F] とする。

解答群

- | | | | |
|---|---|--|---|
| ① $(\omega C + \frac{1}{\omega L}) V_0$ | ② $(\omega L + \frac{1}{\omega C}) V_0$ | ③ $ \omega C - \frac{1}{\omega L} V_0$ | ④ $ \omega L - \frac{1}{\omega C} V_0$ |
| ⑤ $(\frac{1}{C} + \frac{1}{L}) \omega V_0$ | ⑥ $(\frac{C+L}{\omega}) V_0$ | ⑦ $ \frac{1}{C} - \frac{1}{L} \omega V_0$ | ⑧ $ \frac{C-L}{\omega} V_0$ |
| ⑨ $(\omega C + \frac{1}{\omega L}) \frac{V_0}{\sqrt{2}}$ | ⑩ $(\omega L + \frac{1}{\omega C}) \frac{V_0}{\sqrt{2}}$ | ⑪ $ \omega C - \frac{1}{\omega L} \frac{V_0}{\sqrt{2}}$ | |
| ⑫ $ \omega L - \frac{1}{\omega C} \frac{V_0}{\sqrt{2}}$ | ⑬ $(\frac{1}{C} + \frac{1}{L}) \frac{\omega V_0}{\sqrt{2}}$ | ⑭ $(\frac{C+L}{\omega}) \frac{V_0}{\sqrt{2}}$ | |
| ⑮ $ \frac{1}{C} - \frac{1}{L} \frac{\omega V_0}{\sqrt{2}}$ | ⑯ $ \frac{C-L}{\omega} \frac{V_0}{\sqrt{2}}$ | | |